

～教員採用選考試験について～

教員採用試験を受ける際にはどの県を受けても以下の点は重視されます。

- 健康で、明るく、人間性が豊かで高い倫理観を持つ教師
- 教育に対する情熱と使命感を持つ教師
- 幅広い教養と専門的な知識・技能を兼ね備えた教師

上の三点は埼玉県の求める教師像ですが他県の教育委員会の HP を見ても似たようなことが書かれています。これらを調べるために筆頭（専門、教職、教養）、論文、面接（個人、集団、討論）などを 1 次試験、2 次試験とで選考するわけです。重要なのは「教員として必要な力があるかどうか」です。

出願方法は色々ですが、ここでは一般受験の場合（1 次試験から受ける場合）を想定して対策を述べます。ちなみに私は埼玉県の高校理科で受けました。

1 次試験…いわゆる学力検査がメインの選考

～一般・教職教養の対策～

・一般教養

問題の大半は高校の教科書レベルです。中には中学校レベルの本当に基礎的な問題もあります。なので、（あればですが）高校のときに使用していた教科書を一度読むのをお勧めします。なければ、市販の一般教養の問題集（ランナーシリーズ等）を 1 冊やれば十分だと思います。特に主要 5 科目はセンター試験を解くことでも力はつくと思います。音楽はバロック、古典、ロマン派の主要人物を代表曲と人物名をセットに覚えましょう。美術も同様に代表的な作品と作者をセットで覚えること。実物を見ることは時間的にも場所的にも（海外の美術館にある場合もあるため）無理な場合が多いので Wikipedia 等のサイトを活用しましょう。国語は、新聞等を読む癖をつけることで活字に慣れ、漢字にも強くなるのでお勧めです。また、新聞は面接での時事問題対策にもなります。英語は文法の問題も出ますが、短文を読んで答える問題もあり、普段から英文に触れて慣れることをお勧めします。また、口語表現も出ますので対策は必要です。理科・数学は時折中学レベルの問題が出てくることもあれば、意味が分からないレベルまで幅がある（様に思える）。ですが、基盤にグッと近づきます。保健・音楽等の主要教科以外はとにかく有名なものは片っ端から覚える。時事問題と絡めて保健の問題は出題されたりする（例えばオリンピックの年ならばオリンピックの話）。

・教職科目

まずは、落ち着いて教職教養の参考書を 1 冊やることをお勧めします。意外と勉強しなければならぬことが多いです。教育史は名言、著書、著者をセットで覚える。教育史に関しては社会科の世界史や日本史とかぶることが多いのでリンクさせて覚えるとよいかもしれません。マークシート形式の場合は、消去法でいかざるを得ない場合が結構あります。その場合は選択肢を良く見ると明らかに違い正解に辿り着くことが多いです。とにかく範

困が広いので要点を押さえる勉強をしましょう。一般常識は大体内容が似通っています。国際平和維持活動や国連関係、各国の首相や大統領の名前、何かの記念 etc.。各都道府県に関する問題が出題されることもあるが都道府県の教育委員会の HP やリーフレット、都道府県の HP を見ると絶対に答えが書いてあるので事前に押さえておきましょう。県の魚や蝶、木、鳥などは押さえましょう。

一般教養・教職教養を通して言えることは過去問を解いて傾向をつかむこと。よく見ると、かなり傾向が見えてきます。

専門科目

埼玉県の場合、60分のマークシート方式で物理5、化学7、生物6、地学6の筆頭試験があります。さらに埼玉県は2次試験でも専門科目の試験があります。ほかの都道府県の場合は1次試験の専門科目は自分の選考する科目の試験の場合が多いみたいですね。埼玉県と同様ならば以下の文章を参考にしてください。自分の科目のみの方は2次試験の専門科目の項を参考にしてください。

～対策～

埼玉県の場合、物理は力学、電磁気学、熱力学、波動の初歩が出ます。基本的にセンター試験のレベル。化学は旧課程の化学Iの内容が全部範囲。また、基本的な化学法則は復習しましょう。生物も旧課程の生物Iが範囲と考えるといいでしょう。埼玉県は遺伝、発生の単元が好きみたいで毎回出題します。生物で使う実験器具（マイクロメーター）等の使い方も見ておきましょう。普段使わない人はなおさらです。地学は鬼門…理由は以下の通り。1：高校で地学を学習する学生が少ない（理系の大学に行った人ならなおさら）。2：高校地学の参考書がまったくと言っていいほどない。センター試験で地学を受ける人があまり多くないのが原因みたいです。売れないんでしょうね…。3：分野によっては物理と化学が必要。気象では熱力学が、天体ではケプラー問題等の力学の理解が必要だったりします。とりあえず、対策としては日本近海のプレートの配置や地震の原理、S波とP波の関係などは絶対押さえる。気象に関しては前線や雲のでき方に関しては理解しておくといいいでしょう。地質や化石の単元は代表的なものを覚えましょう。参考書ですが清水書院が出版する「ひとりで学べる地学」はお勧めの参考書です（著者は青木寿史他）。これは持つておくと高校でいざ教壇に立つときに絶対に役に立つと思う参考書（新課程対応且つ地学基礎だけでなく地学も対応）。全体を通して言えることは、過去問で解いて途中過程を含めて解答して8割以上はコンスタントに取れるレベルまで上げるといいでしょう。

2次試験…メインは人物の選考

基本的に人物重視であることを念頭に入れることです。つまり個人面接、集団面接、集団討論等の成績が合否のカギです。大体的内容は以下の通りです。

専門科目の傾向と対策

自分の希望する科目（物理、化学、生物、地学）を選択する問題で、大学レベルの問題も出る上に教育がらみで板書計画や生徒からの質問を想定した問題等が出題されます。具体的に言えば、「生徒から以下の質問が来たとき、あなたならどのように説明しますか」「〇〇の単元のプリントを作りなさい」のような直接的な知識というよりは教育に知識を生かせるかを問う問題が多くなります。大体の都道府県が記述式なので部分点が狙える問題です。範囲は各科目全般。大学教養レベルも出るので、油断はできません。特に旧課程のⅡを付した科目の内容は忘れているところか授業が行われなかった場合の多いので早い段階から対策を立てないと全滅の危機もある問題です。授業の板書を想定した問題はポイントを押さえ、簡潔に且つわかりやすく書くことが求められます。これは、模擬授業をやることでいつの間にか出来るようになるかと思います。教育実習を思い出しましょう。そして、得意な分野を作りましょう。化学ならば、有機化学が得意ならば有機化学の問題は絶対9割はとれるぐらいの知識を確保しましょう。

面接

基本的に「説明は簡潔明瞭を心がける」こと。また、結論を先に言い理由を後に言うと面接官に聞いてもらいやすい。例えば「私は〇〇だと考えます。△△だからです」のように。重要なのは「わからないことは無理して答えない」。誠実さを見ています。わからないときは素直に「勉強不足でわかりません。今日の試験が終わり次第、早急に調べます。」等の返答で意欲があることを示すことが必要です。また、緊張等で質問の内容が富んでしまったときは素直に聞きなおしましょう。知ったかぶり、嘘はダメ、絶対！！また、答えは長くても2分以内に終わるように心掛けるようにしましょう。以下は私が受けた自治体の面接の場合です。

個人面接

個人面接は20分程度で面接官は2人。

集団討論

集団討論は35分程度、試験官が2名で受験生は6名。最初にテーマが発表され、そのあと自分の考えをまとめる時間が2分、考えを発表する時間が与えられ、そこから自由に討論。協調性が大切で、自分勝手に話すと減点対象らしい。

集団面接

集団面接は25分程度で受験生5人に対し面接官が4人。面接官は教育委員会の偉い方々がやるらしい。基本的に圧迫面接の空気が強く、受付の担当員の目付きが鋭く威圧感があります。私のときは面接官の一人がふんぞり返っていた人がいた。また、二つ隣の人に結構深くまで質問をして集中攻撃なんて場面もありました。こういう攻撃？は具体性のない回答の人が狙われていました。

～対策～

個人面接では以下の内容を聞かれました。

- ・どんな教師が子どもからしたら魅力的か。
- ・どんな工夫を授業にするか。
- ・趣味は。
- ・なぜこの都道府県を志願したか。
- ・大学ではどのような科目を学んだか。
- ・あなたが教師に向いていると思う点は何か→それはどのような場面で活かせるか。
- ・最近の気になる教育関係のニュースは何か（私は全国学力調査の話をした）→なぜ学力が低下したと思うか→地域で地方の点数が高いがなぜだと思うか。
- ・どんな演示実験をしたいか→それはどのような実験か。
- ・どのような生徒に育てたいか→そのためにあなたはどのようなことをするか。
- ・学力とは何でしょうか→「生きる力」とは何か。
- ・長所は何ですか→それを教育にどう役立てたいか。
- ・わからないと生徒が授業を聞いてくれないときはどうするか。
- ・放課後にどんなことをしたいか→どんな部活動をみたいか→では、自分の専門でない部活動を見る場合どうするか。
- ・学校をやめたいと言われたらどうするか。
- ・理科嫌いって言われているがどうしたらよい。
- ・教員の指導に従わない生徒がいたらどうするか。
- ・学年会などで意見がぶつかったときはどのようにするか。
- ・専門は何で何の科目なら教えられるか。やりがいとは何か。
- ・受験した都道府県の教師になる意気込み。

矢印は派生質問。とりあえず、面接ノートを作り、箇条書きでよいので、どのようなことを答えるかを書き出してみましよう。面接ノートは作るべきです。後は、学生らしく元気よくハキハキと。あと、基本的な法規は聞かれる可能性がある。あと、学習指導要領や県の教育施策、国の教育施策等は絶対に目を通しておくこと。また、新聞を読んでおくと非常に役立ちます。

重要なのは教師になりたいという熱意を伝えることと、なぜ受験した県を選んだのかという理由を自分なりにハッキリということ。必ずその県を選んだ理由があるはず。そういう意味で面接ノートは必須でしょう。

集団面接は以下のことを聞かれました。

- ・ 30秒で教科、番号、自己アピール。
- ・ 社会人になることに不安はあるか。
- ・ 最近の気になる教育関連のニュースは（隣の人が学力調査を言ってしまったが、私も学力検査について言った結果が次）→他にないの？（本当にこう言われた。私は大津市のいじめ問題について話した）→一般人からしたらどう思うか。
- ・ 一般企業は受けなかったのか→なぜか→教師になれなかったらどうする気か。
- ・ なんで理科教員を目指したのか。
- ・ 授業評価についてどう考えるか。
- ・ 生徒指導をするうえであなたが大切にすることは何か、一言で言え。

私が学生ということもあり、上記のような質問になったみたいです。既に現場で働いている人には違う質問が飛んでいました。矢印は派生質問。回答は具体的に、協調性を持ち、質問に正対する姿勢が求められます。個人面接、集団面接問わずに圧迫的な面接をしてきても冷静に回答することが求められます。動揺したりしない。むしろ、動揺するかどうかを面接官は見ておりワザと意地悪な質問をぶつけてくるので毅然とした態度で挑む。威圧的に質問されておどおどしたら面接官の思うつぼです。集団面接は協調性を見ていたりします。全く発言しないのはダメですが、発言しすぎるのも控えた方がいいです。地元ネタの質問が来ても答えられるように受験する県のHPを見て基本的情報を押さえておく（教育長の名前や教育委員会委員長の名前等）と良いでしょう。集団面接は、他人の発言を聞くときに発言者を見てうなづくぐらいの余裕は欲しいです。あと、**否定は絶対にしてはいけません**。ある質問で自分の考えと逆のことを言われても「彼は〇〇と言いましたが、私は次のように考えました」のようにする。

集団討論は最初の自分の意見を言うときは学校と絡めて言うといいでしょう。その後は2〜3回ぐらい話せると考えてください。ここでも、**他人の否定は厳禁**。他の受験生の回答を踏まえて答えましょう。たとえ自分と真逆の考えでも否定してはいけません。あと、**司会進行はやらないほうがよい**。まとめる力がないのに司会進行をやると出しゃばりにしかありません。当然、うまくまとめられないと減点の対象となるので若者は黙って誰かがやるのを耐えて待つ。

以上です。どの県でも言えることですが、教師になりたいという情熱が必要不可欠です。
また、自分の考えを簡潔明瞭に述べる練習をしましょう。
あきらめずに日々努力を重ねていきましょう!!